

第4回 県立淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地あり方検討会

1 日時 令和7年12月2日（火）10:00～12:10

2 場所 現地視察：淡路島公園
協議：淡路ハイウェイオアシス やまもも

3 出席者

（1）委員

高田知紀委員（会長）、澤田佳宏委員、山本正彦委員（代理出席の住伸栄様）、
小南廣之委員、関美恵子委員、坂田隆二委員

（2）オブザーバー

淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地管理事務所、ハイウェイオアシス管理事務所、
洲本土木事務所

（3）事務局

公園緑地課

4 内容・議題

（1）開会

（2）現地視察（10:00～11:30）

（3）現地視察を踏まえた協議（11:30～12:10）

5 議事要旨

（1）開会

○事務局より、当検討会を公開で実施し、議事録を県HPで公開することを説明。
○事務局より、委員定数8名のうち6名出席で定足数を満たしており、会議が成立していることを報告。

（2）現地視察（10:00～11:30）

【資料1】に基づき実施。以下、各委員の主な発言内容。

①昭和池周辺（NARUTO&BORUTOエリア）

発言者	発言内容
高田会長	<ul style="list-style-type: none">・昭和池を周回できるようするためには、車が通れる道幅の確保と整備にかかるコストが懸念点として挙げられている。・公園利用者の遊歩道とニジゲンノモリエリアの有料エリアと管理道（軽トラックが通行できる道）を上手く確保できればよい。・池側に設置されている設置物と、公園利用者の遊歩道とニジゲンノモリの有料エリアが交差する東屋と、東屋の裏を抜ける道の確保が解決できれば、池を周回できる可能性がある。

発言者	発言内容
	<ul style="list-style-type: none"> 今後は技術的に可能かどうかと予算の調整が必要となる。
澤田委員	<ul style="list-style-type: none"> 公園利用者の遊歩道は、歩くだけの利用であれば登山道レベルの道で問題ない。 東屋を抜けるための動線は、草刈りや少しの整備を行えば、獣道ではあるが確保できる可能性があり、現状を維持したまま、公園利用者の遊歩道を確保できると思われる。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> アトラクションの演出を変更することは、ライセンス関係ですぐに変更することはできない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 新たに園路を造成するのではなく、柵等を設置することを想定している。 東屋はアトラクションがあるため、公園利用者の遊歩道とニジゲンノモリの有料エリアが交錯する。

②林間広場（ナイトウォークコース）

発言者	発言内容
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> 景観に配慮し、設置物のカモフラージュができている印象を受けた。 希少な植物など気を付けないといけないものを考慮して設置物を設置することと、利用の時間帯を上手く区別できれば、自然観察ゾーンとアニメパークゾーンは共存できる。 明確にゾーンを分けるのではなく、自然観察ゾーンとアニメパークゾーンをオーバーラップするエリアになる。 空間のゾーニングと時間のゾーニングをあり方検討会で決める必要がある。
澤田委員	<ul style="list-style-type: none"> 安全に自然体験ができる点は都市公園の機能である。
住様	<ul style="list-style-type: none"> 山中の谷筋のため、本来であれば登山しないと行くことができない場所であるが、整備された園路のおかげで歩きやすく、誰でも訪れることができ、珍しい植物を観察できる。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> 設置物が目立たないようにカモフラージュしている。 火の鳥の営業開始前は、考慮しないといけない植物を聞きながら設置物を設置した。

（3）現地視察を踏まえた協議（11:30～12:00）

発言者	発言内容
高田会長	<p>現地視察した中で、気づいたことや感想、今後重点的に議論すべき内容があれば発言をお願いする。</p> <p>本日は、まず池の周辺の園路を確認したが、前回までの議論で、これまで周囲できていた場所ができなくなっている状況の解決策を考えることがポイントとして挙がっていたが、現地を確認することで、これから解決に向け、検討すべきポイントや材料が出てきた。次にナイトウォークのエリアを確認したが、自然だけ、アニメだけといった分け方で</p>

発言者	発言内容
	はなく、色々な使い方を重ねられるエリアであると実感できた。空間的に重ねていくことと時間で使い方を分ける考え方をすれば、大きな可能性があるエリアである。このエリアは明確にゾーンを分けるのではなく、例えば、自然観察・自然体験ゾーンとアニメパークゾーンを掛け合させていく考え方があるのでないかと思う。
澤田委員	今日の視察は良かったと感じた。池周辺の状況を確認したこと、これから可能性を考えることができるようになった。ナイトウォークも数年ぶりに見たが、概ねうまくいっているように感じた。細かいところを見れば、トラブルが生じているかと思うが、概ね自然環境に配慮しつつ、時間で場所をシェアするという方向性は機能しそうだなと感じた。今後、細かいトラブルをどう解決するのかを考える必要があると思うが、上手に使い分けできそうだと感じた。先ほど、「自然観察・自然体験ゾーン」と「アニメパークゾーン」を重ねる可能性があるとおっしゃったが、「自然観察・自然体験ゾーン」と「アニメパークゾーン」さらに「生態系保全・保護ゾーン」が重なる場合もあるかと思う。ただ、時間でシェアする場合、何を優先すべきかを考える必要がある。昼間の利用、夜間の利用どちらも優先されるが、壊してしまったときに戻らないものは、公園の価値であるため、しっかりと残しながら活動することを、ルールの中で確認しておいたほうがよい。本日歩いたゾーンでも、ここにしか生えないランがあるなどの情報はいくつかある。現在は、そういうところにも配慮してもらっているが、今後もその部分への配慮が続くようにルールで明確にしていく必要がある。
住様	だいたいは澤田委員がおっしゃったとおりであるが、1点だけお伝えしたことがある。場所の呼び方が統一されていないため、話がかみ合わない場合がある。私は淡路島公園の管理事務所が使う呼び方で考えているが、県の方と話をしても場所の呼び方に齟齬が生じているため、上手く意思疎通できないことがある。今後お話をすると際に、どこの場所を言っているのかが分かるよう場所の呼び方を統一することを提案する。
関委員	昭和池周辺の園路で封鎖されている園路の距離が思ったより長いと感じたが、これから協議を重ねて園路を歩けるようになつたらよい。その他には、クレヨンしんちゃんの人形が園内にいくつもあり、子どもが喜ぶなど感じた。ただ、クレヨンしんちゃんの建物の壁面を塗り替える機会があれば、もう少し自然に合う形にしていただければありがたい。
坂田委員	ナイトウォークは火の鳥の実施の際、澤田委員や皆さんとも歩きながら、確認したが、当時の状況も変わっている中で、取り入れられないご意見に関しては、できる範囲で取り入れるつもりである。我々も色々な知識を教わりながら、配慮すべきものの知識を積極的に取り入れ、活動した方がよいと感じた。もう1点、例えば、公園の池の周りが歩けるようになったとき、何かイベントを実施するなど、整備した先の企画がないと整備したけど人があまり使わないといった事態が起こる

発言者	発言内容
	可能性があるため、公園の未来のあり方を考えるという観点でいうと、その先の企画も考える必要がある。
小南委員	<p>私は自然体験ができる場所を念頭に置いて現地視察した。まずは、公園として大事な場所をしっかりと残してもらっていると感じた。まずは、ナルトエリアの上側の空間には、都会の若い人たちが体験したいであろう、木漏れ日の中での昼寝ができる静かな場所がある。その他にも長いベンチを設置すれば、昼寝ができる静かな場所がたくさんあった。</p> <p>それから、自然の物を採取し工作する体験でよく使う、ドングリがたくさん落ちていた。特に森のゾーンはドングリの宝庫である。ただ最近の子どもたちは、ドングリを使った工作などを体験していないため、ドングリが落ちていても目につかない。子どもたちが自然体験できる機会を増やし、自然に親しむことができればと思う。また公園は樹木を適切に管理できているため、例えばクヌギの木を見ても、あれほど太い幹で高々と伸びている木を観察できる場所はそんなにない。昔は山にある木を薪に利用していたため、山は綺麗に管理されていたが、現代は電気やガスが普及され、木を切らなくなつたため、山が荒れている。淡路島公園の森のゾーンは、山の自然を感じることができる、すごく可能性のある場所である。この場所をさらに活用できればと感じた。</p>
高田会長	<p>3つ大事なポイントがある。1つ目は、澤田委員がおっしゃったように、淡路島公園でこれからコミュニケーションの場やゾーニングを考えていくときに、一度失うと戻らないものを大切にし、残していくものを全員で共有しながら、ゾーン分けや新しい使い方を考えていく必要があるということ。当たり前のことではあるが、忘がちなので、その前提是あえて強調して考えておく必要がある。失ったら戻らないものは何なのか、大にしないといけない価値は何なのかというのは、全員でコミュニケーションを取りながら決めていくこと、それが1つ、とても重要な理念として挙げられる。</p> <p>2つ目は、関委員がおっしゃったように、公園のイメージとアニメやキャラクターがマッチングするような空間をどう作るのかは、この淡路島公園の価値を、自然だけ、アニメだけではなく、相乗効果で、最大限發揮していくときにすごく重要なポイントになる。そのあたりは、アニメパーク構想を実践するときに、この自然景観をうまく生かして、アニメの魅力も、発揮できるような、そういう方策を考えていかないといけない。その時には、坂田委員がおっしゃったように、自分たちだけだと知識が限られるのでいろんな経験や知識を持った人と、コミュニケーションが取れると、ニジゲンノモリとしての気づきがあるということをおっしゃっていただいたので、そういうコミュニケーションを取り、自然とアニメを共存させ、公園と一緒に良くしていくことが重要なポイントになる。ナイトウォークのゾーンが、それぞれのゾーンが重ねられるエリアになってくる。そこを実験的に、アニメパークと自然利用を、相乗</p>

発言者	発言内容
	<p>効果で良くしていくゾーンにするということも考えられる。もう1つは、小南委員がおっしゃったように、ただ、自然を放っておけばよいのかというと、そうではなく、荒廃していくという側面もあるので、公園の中でその自然環境を利用しながら維持していく必要性が生まれてくる。その時に、淡路島公園にはニジゲンノモリがあるので、アニメパークの中でうまく自然を使いながら、環境も良くし、アニメの魅力を伝えるという方策も考えていく。自然を対立的に考えるのではなく、その2つで相乗効果を発揮させるという、考え方が重要なポイントである。</p> <p>3つ目は、坂田委員がおっしゃっていたが、単に整備するだけではなくどういう使い方をするのか。私なりにもう少し補足すると、公園を訪れた人たちが、公園で何かを行っているシーンをどう描くかということである。人のいない環境ではなく、人がいる環境を思い描くと、整備だけでなく、どういうシーンを描くのかというところで、淡路島公園には、いろんな可能性がある。小南委員が、木漏れ日で昼寝できる場所があるとおっしゃってくれたが、公園には、何か目的があつて来た人が何かをする場所と、目的なくぼーっとするような場所がある。それらの場所が公園として本当の価値になってくる。公園で過ごすシーンをどういうふうに描いていくのかが、3つ目のポイントになる。</p> <p>さらに具体的な議論として、ナイトウォークのエリアの位置付けをあり方検討会のアウトプットとして今後表現していく必要がある。もう1つは、昭和池の周りであるが、ここはかなり具体的に議論ができたが、どれぐらいの道幅が必要かということ、管理道路と有料エリアのゾーンの通行人と無料エリアの通行人、この3つの動線をどういうふうに整備して、分けていくのかということを検討する中で、できることがあれば、池周辺を周回するという機能が回復できるのではないかということだが、その辺りは具体的に、関係者、指定管理者、県の方で検討していただきたい。予算との兼ね合いもあると思うので、今日現地で澤田委員がおっしゃったように、獣道でもいいのであればこういう動線ができるなど、いくつか検討を具体的に進めていただけたらと思う。</p> <p>また、住委員がおっしゃった場所の呼び方であるが、私もとても大事な視点だと思う。それぞれのエリアの呼び方、例えば、これからゾーニングを考えていくときに、そのゾーンの名称は、そのゾーンの特性を表すことになるので、これからゾーニングを考えていくときのゾーンの呼び方や、スポットで呼び名が統一されていない場所があるのであれば、そこをどういう名称で表現するのかはその場所のあり方に関わってくるので、あり方検討会が閉じた後も継続して議論をする必要がある。空間の認識、あり方の共通認識が整い、議論の下地ができ、その下地をもとにコミュニケーションが実行されていく。そのあたりもポイントになる。</p> <p>本日、皆さんの意見を私なりに解釈しながら、今後の議論のポイント</p>

発言者	発言内容
	を整理した。他に付け加えて発言したいことがあれば、発言をお願いする。
澤田委員	今日初めてナルトエリアに入ったが、入口のところで、遠くの山並みを借景にして、パネルを立てているなど、デザインや使い方がうまいと感じた。野外劇場は、これまで公園として整備された場所であるが、それほど活用されてはいなかった。それが常設で活用できる場所になっている。このあたりは、民間活力導入の良い部分が現れている。あり方検討会のテーマとして、民間活力導入と公共性の担保の調整が一番大事ではないかと以前も言ったが、それぞれの良い部分を引き出すことが大事だということが、今日の現地視察で、よりよく分かった。また、今後の協議の場では、互いにリスペクトすることが大事であることを学べた。
高田会長	互いにリスペクトすることは、公共の空間を全員で考えていくときの大事な姿勢である。それぞれが大切にしているものを尊重しながら、それぞれが勝手に活動するのではなく、全員でより良い案と一緒に考えていくというのが、まさにこのあり方検討会であり、今後のコミュニケーションの場になってくる。 私も澤田委員と同じで、今日はそれぞれが大切にしていることを語り合いながら、相手が大切にすることに対する理解を示して、議論ができたと思う。今後のあり方検討会でも、この雰囲気やスタンスは継続していきたい。
小南委員	淡路島公園にはE駐車場付近の桜がある展望広場や、草原と花の広場付近の展望デッキはあるが、遠くの景色を見れる場所が意外と少ない。遠くを見れる場所も大事である。
高田会長	公園内の利用だけでなく、公園の外を見る視点場を作ることも大事であるという意見であったが、そのあたりも公園の価値として共有できたらと思う。
高田会長	その他に何かあれば発言をお願いする。
淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地管理運営協議会事務局	淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地管理運営協議会の事務局として、1件相談したいことがある。あわじ石の寝屋緑地のあり方検討は、管理運営協議会で協議することで、すでに皆さんに了承いただいているが、現状検討会の設置要綱上は、あわじ石の寝屋緑地のあり方検討が当検討会に特任されたままとなっている。このままでは、管理運営協議会が、勝手にあり方検討を行っている状況となり、大変苦慮しているところである。対応案として、今お配りした改正案にすれば、辻褄が合う形になると思うが、他にいい案があれば教えていただきたい。
高田会長	私の認識では、淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地あり方検討会は淡路島公園とあわじ石の寝屋緑地の全体の方向性に関するあり方を検討する場という位置付けで、管理運営協議会は日常の運営や管理運営、現場に根ざした議論を行う場と認識している。特に何か協議がどこかに一任されていることではなく、日常で動いているものに関しては管理運営協

発言者	発言内容
	議会で議論して、その都度進めていくという認識であったが、そこに何か問題があるのか。
淡路島公園・あわじ石の 寝屋緑地管理事務	その通りであるが、あり方検討の協議成果を、管理運営協議会にいただいて、管理運営協議会でも、改めて協議するという構造だと認識している。あり方検討の協議体は、設置要綱上、現状このあり方検討会の場だけで実施する形になっている。あり方検討はこのあり方検討会に特徴されているので、あわじ石の寝屋緑地のあり方検討を管理運営協議会で勝手に協議している形になっている。
事務局	前提として管理運営協議会は、本来、公園の方向性も決めるべき場であり、あり方検討も管理運営協議会で協議するのが本筋である。ただ淡路島公園においては、過去の経緯などから、別途協議体を立ち上げ協議したほうが良いと判断し、あり方検討会を立ち上げ実施している。それに合わせて、当初はあわじ石の寝屋緑地もあり方検討会で検討することとしていたが、淡路島公園とは別で協議した方が良いとの意見があつたため、本来、あり方検討を協議すべき場である管理運営協議会で協議するようにした。確かに、設置要綱上は、あわじ石の寝屋緑地あり方検討の記載が残っているので、修正しても良いかと思う。
高田会長	当初、淡路島公園とあわじ石の寝屋緑地が並列してあったが、その中で淡路島公園のあり方だけを議論していくということで、この検討会は進んでいる。それが担保されるということであれば、設置要綱については、こだわりはなく、あわじ石の寝屋緑地あり方検討の扱いについては、以前この場で議論を行い、結果的に、管理運営協議会で協議することとなっている認識である。
澤田委員	あわじ石の寝屋緑地あり方検討を管理運営協議会で議論することとなったということを設置要綱上、正式に記載してほしいということか。管理運営協議会で議論した結果を、最終的にこのあり方検討会に報告することとか。
事務局	淡路島公園のあり方検討の結果を管理運営協議会に報告するが、あわじ石の寝屋緑地のあり方検討をあり方検討会に報告する必要はない。
高田会長	あわじ石の寝屋緑地のあり方検討は、管理運営協議会に任せることとはこの場で合意しているので、それを実現するための適切な文言であれば問題ない。淡路島公園については、継続して議論し、ここでの成果を管理運営協議会に報告して、その後の運営は管理運営協議会を軸に進めるということが実現できる適切な文章にしてもらうということで、委員の皆さんには、その認識で了承してよいか。
高田会長	特に異議はないようなので、あとは、事務局と指定管理者の間で調整をお願いする。このあり方検討会としては、私が申し上げたことを担保していただければ問題ない。

以上